電子情報工学科大ゼミ（同窓会支援企画）「先輩からのメッセージ」
（社会で活躍する OB/OG から学生の皆さんの将来に向けた提言）

平成 19 年度から始まった同窓生の皆さんによる講演会．平成 20 年度も 11～1 月に計 4 回，様々な世代の 8 名の講師の方々に大学にお出でいただき，現代の技術トレンド，ご自身の貴重な社会体験や考え方，学生時代の大切な思い出などをお話しいただきました．平成 19 年度は不特定多数の学生を対象にしたのが災いし，内容が大変素晴らしかったにもかかわらず，聴衆が 50 名程度にとどまりました．その反省に加え，同窓会と大学の結びつきを強めるため，平成 20 年度はこの講演会を「大ゼミ」と改名し，学生実験の余白の時間帯を利用して学部 2 年生に積極参加してもらう形式に変えました．おかげで聴衆は倍増！2 年生にとって長く続く勉強のモーティベーションを高めるのに十分な，刺激的なトークを以下にご紹介します．

前田稔さん（1965 年卒，ファイベスト）「ベンチャーに携わって」―― 日立製作所の光事業推進本部長を勤め，その後，日本オプネクスト，ファイベストとベンチャー経営に携わった前田さん．光モジュールの製品化の話を交えつつ，研究所で誰にも負けない世界トップ技術を目指した修行時代，社内ベンチャーの光事業立ち上げ，ベンチャー企業の本格的な設立・経営と歩まれた経験を力強くお話しいただきました．大学で役立った授業は？という質問に対して，専門よりも基礎！回路や電磁気をしっかりやっていれば大丈夫，という言葉には学生もビックリした様子．

森康平さん（1997 年飛び級，ソニー）「電気技術者の品格」―― 飛び級制度ができてから最初に博士課程まで進んだ森さん．高速伝送用 IC や基板の設計に触れつつも，むしろ社内で実施したアンケートをベースに学生と対話形式の講演となりました．いきなり「大学の授業は役だったと答えた社員の割合は？」．多くの学生の「役立たなかった」という予想に対し，実際はほとんどが「役だった」！これには教育側がホッとしました．また，やはりやりたい仕事ができている人が一番幸せを実感できているようです．ごく最近まで UCLA に在外研究していた経験もご披露いただきました．

谷公夫さん（1970 年卒，NTT ドコモシステムズ）「リアルタイムマネージメント」―― 現同窓会長にしてドコモシステムズ社長の谷さん．実は講演前日に講師の変更を余儀なくされ，電話一本でお引き受けいただきました．同窓会のありがたさを痛感します．NTT の情報システムをずっと率いてこられた中での成功例がリアルタイムマネージメント．顧客情報をその場入力，データベース化することで，繁雑な作業を極力なくす方法です．また企業の健全な経営を支える管理システムが経産賞から表彰されたエピソードも．「情報システムは機械的な作業を省き，人間らしさを復活させるツール！」

今井さやかさん（1995 年卒，相模女子大学）「情報系・メディア系教育に携わって」―― 本学で学部から博士課程まで進み，その後，本学の研究員，群馬大の助手，そして現職の相模女子大講師まで，一貫してアカデミアとしてデータベースの研究教育を続ける今井さん．学生時代の研究室の生活を克明に紹介いただいたほか，群馬大で津波の歴史や科学をまとめる津波ライブラリプロジェクトに携わってきたご経験，相模女子大での文理融合教育のお話などを伺いました．特に「津波」の地図と画像のデータベース化は，Google Map を先取りする先進的な研究．

海老名季晴さん（1982 年卒，NEC エレクトロニクス）「変化する市場環境に応じた生産自動化への取り組み」--- メカトロ技術に携わりたいという思いから，入社後，ポケベル，携帯電話などの生産ライン構築を手がけてきた海老名さん．工場では実際にどのような流れで製品ができるのか，何が無駄を省くキーか，どのような工夫や発想転換を繰り返してきたか，発売日にこぎ着けるためにどのような綱渡りをしてきたかなど，リアリティ溢れるお話を伺いました．自ら汗をかく，情熱が冷めないうちにやるなど，まさに「現場に起こっていることを知る人」のお言葉です．

松崎二葉子さん（2001 年卒，ソニー）「ものづくりを通して得られたもの。」--- これまで講演者の中の最年少，松崎さん．現在，育児をしながら，ディジカメの画像処理技術を開発中．自分に与えられた課題「白点補正」に取り組むうちに，夜空の星も風呂場のタイルも白点に見えてきた！うまくいったと思ったら，アッという間のプロジェクト解散．．．企業にありがちなリアルな苦労話を聞かせていただきました．また自分の技術を何としても製品化したいという強い気持ち，そしてついに製品に入ったときの感動など，若い情熱を爆発させた熱弁でした．

乙部孝さん（1968 年卒，滝野国際特許事務所）「研究開発と特許の関係」--- ソニーでビデオディスク，BS 受信機，光伝送や光無線を研究開発した後，弁理士となって特許事務所に転身，自らも事務所を開設した乙部さん．改善はアイデアから生まれることを力説され，雪見だいふく，ファイナルファンタジー，青色発光ダイオードなどなど，発明になるアイデアを解説いただきました．これらは学生にとって大変新鮮だった模様．また，1 日にたった 1%他人よりも余計に努力すれば，1 年で 1.01^{365} = 37.8 倍だけ先に進むことができるという人生アドバイスが印象的．

高橋太郎さん（1997 年卒，トヨタ）「就職と転職で発見した 10 の真実」--- ヒューマノイドロボットを開発していた高橋さん．ローラースケートの魅力的なビデオを披露いただいた後，社内の決定でプロジェクト縮小，転職を余儀なくされた苦労話に．その経験から，当時学生だった自分に聞かせたい 10 の真実を選定，学生にご披露いただきました．「大学は体系的に学ぶ最後のチャンス」，「教養は学んだことを忘れた後に残るもの」，「タイヤを発明しない」，「永遠ではない」，「誰か見ている」，「気持ちで動いている」などなど，含蓄に富んだ言葉の数々．

前回と同様，同じ学科で学んだ講師の皆さんからは，学生に対する深い愛情が感じられました．通常の技術講演会では，このように気持ちのこもったお話はなかなか聞くことができません．就職が近づく学部 4 年生や大学院生には，人事課やリクルーターの直接的な情報がより重く響くようになります．そのような切羽詰まった状況になる前の学生に，こういった現場の真実を伝えていただくことは，その後の人生や考え方の素晴らしいナビゲーションになると改めて思いました．どうもありがとうございました．ところで今回の皆さんのうち，偶然，4 人が同じ企業の関係者となりました．企画者としてはできるだけ幅広い機関から講師を集めているつもりですが，今回，このような偏りが出たことをお詫び申し上げます．平成 21 年度も多くの同窓生の皆さんから講師をご推薦いただけると期待しておりますので，どうぞよろしくお願いします．

（1985 年卒馬場俊彦（本学教員））